

生涯学習推進員さんに聞く

(場所：岸里小学校・図書室)

岸里識字・日本語交流教室は、西成区岸里小学校3階の図書室で毎週金曜日の午後7時から8時30分まで活動しています。



教室運営に携わっている生涯学習推進員の片山光子さん、市原幸子さん、小川佳美さんの3人にお話をうかがいました。

「岸里識字・日本語交流教室」はどんなところ？

3人の推進員さんに、岸里識字・日本語交流教室のことを詳しく話してもらいました。



—まず、教室のことを教えてください。

岸里識字・日本語交流教室は、岸里小学校の図書室を借りて活動しています。以前はこの図書室の向かいの部屋も使わせてもらっていたのですが、そこは『いきいき活動』の部屋として使うことになったので、今はこの図書室だけでやっています。



—この教室で学習する人、教える人はどのような人たちですか？

現在は学習者が12、3人くらい、ボランティアスタッフが9~10人います。本来は1対1で教えるのを理想としているのですが、現状はボランティアスタッフ1人に対して学習者2~3人になってしまっています。学習者は、ほとんどが中国から来た人です。他にはベトナム等から来た人もいます。学習者は西成区に住んでいる人が半数くらいで、住吉区など区外から来ている人もいます。



ボランティアスタッフは、西成区の人半数くらいです。仕事帰りに来ている人もいます。皆さんとても熱心です。ボランティアスタッフはいろいろな媒体をみて応募して来てくれています。

学習する際には、テーブルごとに、①(日本語)ができる人、②まあまあできる人、③初めて学ぶ人、といった具合にレベル別に分けています。こうすることで、初めて来た学習者が入りやすくなります。

—推進員さんはどのような立ち位置で携わっておられますか？

私たち推進員は、教室の運営を3人で当番制でやっています。だいたい月に1回は当番に当たります。ですが、当番でないときも教室に来るようにしています。学習者も毎週必ず来るわけではないですし、新しい人もどんどん入ってきますから、把握しておきたいので。ずっと私たち3人で長く続けているのですが、後進を育てないといけなのに育っていませんね。



教室の風景は？

午後7時になると、3階の図書室に学習者が集まってきます。1人の学習者に1人のボランティアスタッフが付いて学習しています。この日は、ご夫婦で日本語を勉強している人も来ていました。また、日本の大学院で勉強するために大阪に来ていて、今日初めてこちらの教室に来たという若者もいました。ボランティアスタッフは、各々の日本語のレベルに合わせて、教材にも工夫を凝らしながら教えます。

中国から来た女性で、自らは少し前まで学習者として学んでいたのに、今は教える立場としてほかの学習者に接している人がいました。ほかの中国から来た学習者にとって人気の頼りになるボランティアスタッフだそうです。

このように、学んだことを教えるという空気が自然と醸成されていて、教室には、真剣さの中にも和気あいあいとした雰囲気の流れっていました。



開始40分を経過すると休憩時間に入ります。ここでは、今日初めて教室に来た新しい学習者が簡単な自己紹介をします。

中国から来た男性が2人、この日から教室に仲間入りしました。2人とも一生懸命日本語で自己紹介をします。それを聞いてみんなで拍手して新しい仲間を迎え入れます。

意見を言い合いより良い教室をめざす

取材にうかがったこの日は、月の最終金曜日だったのですが、毎月最終週の教室は通常より15分ほど早く終了し、そのあと、推進員とボランティアスタッフとの打ち合わせを行っているとのことで、我々も同席させていただきました。

教室の年間行事として、7月には七夕まつり、12月にはティーパーティーを行い、日本文化を伝えたり、学習者同士のコミュニケーションを図ったりしているのですが、この日の打ち合わせの主なテーマは、先月開催されたティーパーティーに関する意見交換でした。ボランティアスタッフ内の月の当番の人が司会となり、ほかのボランティアスタッフの皆さんから様々な意見を聞き、今後の行事開催などの際に活かしていこうというものです。ベテラン、若手に関わらず、誰もが自分の意見を言いたい空気を感じました。このほかにも、ボランティアスタッフの月の当番について、仕事が忙しくて当番を替わってほしいと困っている人に対して、「だったら私が替わろうか？」という声が出たりと、みんなでサポートしようとする一体感がありました。



推進員とボランティアスタッフとの関係性

このように、長年にわたり円滑に教室を運営していく秘訣はどのようなものでしょうか？ボランティアスタッフとの関係性などについて、引き続き3人の推進員さんにお聞きしました。

—教室運営がうまくいくために、意識していることなどはありますか？

私たち推進員は、学習者に日本語を教えることはしていません。ボランティアスタッフの皆さんに任せていて、指図することはありません。ボランティアスタッフの皆さんはとにかくみんな熱心で、教え方もすぐ工夫しています。自分で教えずにようにテキストを作っている人もいます。ボランティアスタッフの皆さんは、教室の運営に関して私たちがちょっと無理なお願いをしても聞き入れてくれますし、ボランティアスタッフ同士の年齢に幅があるのに、年配の人も若い人もスムーズにやってくれています。あまり干渉し合わず、自分たちのペースでやっています。

—ボランティアスタッフの皆さんとこのような良好な関係を維持していくために心がけていることはありますか？

一番大事にしているのは『挨拶』です。ボランティアスタッフとの関係だけでなく、教室全体が和気あいあいとした雰囲気になれているのは、みんなが「こんばんは」、「さようなら」、「来週また来てね」といったように、声を掛け合っているからだと思います。そして何よりも、ボランティアスタッフの皆さんが一致団結していることです。みなさん個性がありますし、教室をいい方向に持って行ってくれています。

教室運営の現状・課題

ここまでお話を聞いていると、順風満帆に思えます。それでも、お悩みや心配事はあるのでしょうか？引き続き聞いてみました。



—推進員さんは、教室の現状や課題について、どのようなお考えをお持ちですか？

この教室は3階にありまして、階段を昇り降りして行き来するしかないのですが、つい先日も大きな地震(令和6年能登半島地震)がありましたし、何かあったときに、学習者の皆さん、ボランティアスタッフの皆さんが安全に避難できるかとにかく心配です。懐中電灯を用意したりしてはいるのですが、この暗い校舎の階段でケガなどしてしまったら大変ですから。それと、学習者さん、ボランティアさん、そして私たちもそうですが、階段の昇り降りが大変。学校側にエレベーターを設置できないかお願いしたのですが、校舎を建て替えない限り無理とのことでした。毎回毎回、事故や災害などがなく無事に教室が終わることを何よりも願っています。

編集後記

3人の推進員さんは長年携わっておられることもあり、教室運営に関して隅々にまで目が行き届いています。そして、ボランティアスタッフの皆さんに対して全幅の信頼を寄せておられ、双方の信頼関係のもとに教室運営が成り立っていると強く感じました。

推進員さん3人の関係性も抜群で、「言いたいことを言っている」「他の2人が話を聞いてくれるからやりやすい」など、こちらも信頼関係は完璧！教室全体にわたりコミュニケーションが図られていて、誰もが意見を言いやすい環境が整っていました。

そんな岸里識字・日本語交流教室ですが、今後も増えるであろう学習希望者に対して、今でもボランティアスタッフの数がやや不足気味ということで、随時ボランティアスタッフを募集しています。興味をお持ちの方は、毎週金曜日午後7時に岸里小学校3階の図書室で教室を開いているので直接来てほしいとのことでした。